

平成二十六年
畠田・神崎
山笠競演会



大地が震え、
山笠が旋回る。

秋 空が夕闇へと染まっていく。そこに浮かび上がる山笠の電飾。山笠自体だけでなく、会場の人々の心もまばゆく照らし、魅了していく。

10月18・19日の連夜、ふれあいイベントパーク(金田)を舞台に、山笠競演会が開かれた。金田・神崎地区から計9基の山笠が集う。2日間の延べ来場者は1万人を超え、福智の夜を熱気に染めた催しとなった。

会場では2基の山笠が「東」と「西」に分かれ、各20四方の舞台で所狭しと競演。傾きながら回転する「練り回し」や、上下左右に揺らす「がぶり」を大地を削りながら豪快に披露した。囃子は「南木囃子」を中心とした道囃子が鳴り響

く。笛の旋律が、鉦と太鼓の拍子で、「オーラヤッサ」のかけ声が掻き手たちの士気を高めていく。勇壮な武者人形ときらびやかな電飾が美しくも重厚な山笠と、高らかな囃子の音色と、掻き手

たちの熱気は、観客を興奮の渦に巻き込み、惜しめない拍手と歓声を引き出していた。

13の回数積み重ね、福智町を代表する催しへと進化して

いった山笠競演会。町内、町外、さらには県外に住む人も帰郷し団結して作り育てる「祭」は、これからも地域と人々が一体となって成長に向かっていくのだろう。その軌跡は山笠の輝きと共に、人々の心に深く刻まれていく。

